平成28年度第８回行政評価委員会

日　時：平成28年11月２日18時30分～20時00分
場　所：さざなみ館　１階第２研修室
出席者：妹尾克敏委員長、倉澤生雄委員、三原春美委員、日野桂子委員、西田和眞委員、木本敦委員
事務局：小笠原・岡井
傍聴者：なし

１　開会

会議の成立を確認した。

２　議事

（１）第７回会議録の確認

前回の会議録を確認後、No.28から34までの７事業の評価を行っていただいた。それぞれの事業評価の内容は、審議事項（２）において確認することとした。

（２）外部評価結果の確認‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ ２

（３）本委員会に対する提案、意見‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ ３

（４）次回の委員会‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥11

（５）その他‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥12

３　閉会

（２）外部評価結果の確認

(事務局)

本日配布している資料を基に説明を行う。前回までに外部評価の審議をいただいた34件の事務事業について、各委員の発言のうち、質問事項を除いた感想や提言を要約して掲載している。本日確認いただき、本様式をもって市長への答申としたいと考えている。

冒頭に「はじめに」「委員意見」とある。こちらは昨年度の内容を掲載している。今年度の評価においても委員のご意見を伺い、その意見を踏まえた上で同様の様式を整えたいと考えている。

次ページに本年度行った34件の目次を設け、行政評価シートを評価順に掲載している。表中の外部評価という欄に委員から頂戴した意見を掲載している。それぞれの事務事業に対する発言に関し、意見をいただく手法もあるのだが、事業の振り返りも含め、１件１件事務局が読み上げ、都度意見があれば頂く、若しくは読み上げた後に意見を頂くという形式で進めたい。よろしいか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

それでは、No.１住民自治推進事業から説明を行う。

〔No.１からNo.34まで読み上げ〕

以上、前回の審議内容も含め、報告とする。

(委員長)

ただ今、全ての事業を読み上げていただき、内容を確認されたと思う。個々の事業について、気付いた点を順次ご発言いただければと思う。

一点、表紙の裏の委員の役職が変わっているので修正いただきたい。

(委員)

よろしいか。No.33（公共下水道施設管理事業）において、事業活動の実績の数値が間違っているとある。こちらは直していただいているのであれば、外してもよいと思う。

〔後日修正済みを確認、当該箇所を削除〕

それからNo.28（老人福祉施設建設事業）に「東京築地の建設問題がないよう」との記述があるが、「東京築地のような建設問題が起きないよう」という表現でお願いしたい。このまま読むと誤解を与えてしまう。

(委員長)

もう少しソフィスティケート（洗練する）ということだろう。No.23（地域公共交通システム構築事業）の２行目、「高齢者の利便性を向上するなら」ではなく、「高齢者の利便性を向上させるなら」ではないだろうか。

（事務局）

ご指摘のとおりである。「させるなら」に修正する。

事務局からも一点補足を行いたい。No.31（社会資本整備総合交付金事業）ほか、下水処理の関係である。委員のご意見で、整備事業を平成42年まで予定しているのであれば、どの辺りまで整備するのか、そこに向かってどう進めていくのか、そこがないと分からないという発言があった。この件について確認を取ると、当初平成42年として計画を立てた時点の見取り図があり、隣町の境まで整備するという計画であるとのことであった。当然国の交付金を利用するので、５年間で区切った整備状況も含まれている。そして、本委員会でも発言があったとおり、平成42年度まで計画は立っているものの、浄化槽の方が有利な面もあることから、２年かけて内容を検討しているとのことであった。それに関する資料を頂いているものの、本日失念して用意していなかった。こちらについては、後日参考資料として送付する。

（委員）

下水道に関しては、先日アンケート[1]が来ていた。合併浄化槽をどうこうと、ちゃんとされているなと思った。私は良い方向に行っていると思っている。

（委員長）

改めて見てみると、中山の施設はなかなかである。

ほかに気付いた点はあるだろうか。こうやってまとまってしまうと何かこれだけかという感じがしてしまう。

（委員）

これだけか…私もそう思う。要するに感動がない。おしなべて…だろう。そこがちょっと気に食わない。

（委員長）

これを答申として出すのだから、ここまでまとめたエネルギーのどれだけを、議会がチェックしてくれるかになる。

ほかにご意見はないだろうか。

（３）本委員会に対する提案、意見

（事務局）

ただ今個々の事務事業の確認をいただき、修正箇所等意見を頂いた。

外部評価結果の報告の最初に「はじめに」「委員意見」とある。こちらにつ

[1]下水道課において、 平成28年10月25日付け「下水道区域の見直しに関するアンケート調査表」として、下水道の認可区域に入っている方（未整備地区）を対象に実施

いて、今年１年間、この行政評価委員会を通じて感じられたことでも結構である、また委員委嘱されてから２年間で感じた内容でも結構である、ご意見、ご感想を頂きたい。その内容を基にこちらのページを調製し、答申における意見書という形としたい。よろしくお願いする。

（委員長）

評価結果の最初のページにあるところだな。こういう形で掲載することとなる。順番に発言いただいてよろしいか。

（委員）

２年間携わり、いろいろな事業があることに驚いた。公募で入ったのだが、詳しく知っている方ではなかったので、名前を聞いただけではっきり分からない事業もあった。内容や目的を聞くと、こういう事業なのかというのがよく分かり、その点は良かったと思う。

あと、いろんな事業がまたがっており、バラバラではなく、もう少し上からきちんと見る人がいれば、もっと良くなるのになという感想である。重複している事業もあったので、いろいろ意見を出しながら、市の方に反映いただければと思う。

この先公募の人はいるのだろうかという不安はある。市民はこの公募をあまり知らないような気がする。私も積極的にやってみて良かったなと思うので、より多くの公募者が出るようにしていただければ良いのではないかと思った。

（委員）

２年間委員として、管理運営事業や一般事務辺りの成果指標のあり方はすごく難しいと感じた。既にできた施設を管理運営する事業だと言えば、きちんと管理運営できればいいという評価では何かもったいないような気がする。管理運営をした上で、それをどうしていくのか、行政評価には馴染まないのかもしれないが、そういう視点で何かないか。実際に管理運営事務に携わっている課から意見が出て、それが次の対応に結び付くような仕組みにならないかなという気がした。一般事務においても、共通の形にはならないだろうが、行政的にこういう手続があって、一般事務ではあるけれどそれを効率化していくようなものにならないか。例えば証明書発行業務であれば、１件当たりどれくらいコストがかかっているという見方ができる成果指標を設定し、金額的な面だけでなく、市民の満足度を測るとか、そういう成果指標を導入していくと良いのではないかという感想である。

（委員）

行政評価の事業単位が財源ごとに細分化されているため、全体像が非常に分

かりづらい感じがした。市民に関心があるのは、いろんな事業をされているものの、財源はどうなっているのか、負担が増えてくるのではないかというところだと思う。財源については、シートに市の税金から出てきた財源や返済義務のない国や県からの補助金、地方交付税や借金である地方債など記載がある。地方交付税は一般財源に入ってしまうかもしれないし、地方債もいろいろ負担割合が違っているとは思う。そこまですると非常に細かくなってしまうかもしれないのだが、せめて負担がどれくらいになるのか分かるとよい。

せっかく行政評価を出して次の事業で見直すという、PDCAサイクルでいくのだろうから、より市民に分かっていただける行政評価ができるとよいと思った。

それから、個々の行政事務に即し、本来その行政事務をどう評価するかと判断すべきなのだろうが、ややもすると政策評価が頭から入ってしまい、政策評価に重きを置いた発言になってしまったという反省材料がある。ただ市民にとっては、総合計画があって、その実施計画があって、どうやって事務がされていると、ひも付けて理解しなさいというのは非常に難しいと思う。だから、何のためにという政策との兼ね合いになると思う。そこに関心が向いているのではないか。最初に戻るのだが、やはり市民に分かりやすい行政評価の事務単位を考慮していただきたいという気がした。

あと２年間委員としていろいろな事業を審議する中、市から来る広報に目を通してみると、その審議した事業の特集を組んでいる、協力隊の担当課が全部出て、詳しく書いていたりする。11月１日に市の広報と共に配られた議会だよりは、大したことないだろうと思って見てみると、１ページに文化ホールのことが詳しく書かれている。財源も小分けしており、全体でも分かりやすくなっていた。市民には非常に有用だと思った。あるいは社協だよりの裏面を見てみると、心配ごと相談が各事務所である、今回は税理士が入っている、弁護士が入っているとやはり目が行く。市の行政により関心を持てるようになったのが良かったと思う。

(委員)

先ほどの意見と同様、この一般事務というものが出てくるのだが、評価するのが難しく、あまり評価できなかった。単純に金額でどうこうという話ではないので、何か良い方法があればと思ったところである。

それから、皆さんが言われたことと一緒でNo.31（社会資本整備総合交付金事業）がその典型だったと思うのだが、事業の中で財源ごとに評価されてしまうものがあり、この財源に関する部分だけ話を聞いても全体像が分からない。そ

ういう壁にぶち当たった例だと思うのだが、何かこういうものも評価が欲しかったなと思った。

あと、各部署が来てずっと説明をしてくれ、支出面で実際何にどう使ったと口頭で教えてくれるのだが、口調が早すぎて書き取れないことがあった。表に書き入れる所がないといえばないのだが、そういう内訳があらかじめ分かるのであれば、うまく反映してくれればと思った。

もう一点、地域的な話題がいろいろ出るとき、私も自分なりにネット等で調べている。前回の下水道事業では当日地図を配ってくれたのだが、そういう資料が先にあれば何かしら読めたということが結構あったので、もし資料を事前に配ることができるのであれば、配ってもらえるとありがたいと思った。

（委員）

当初引受けた際、万言不能一蛍光（ばんげんあたわずいちけいこう）、要するにどんなことを言っても一匹のホタルの光にもならないだろうと思いながらやって、最後は以散会伊予之海（もってさんかいいよのうみ）、伊予の海のように何も起こらない、平穏無事という感じであった。内容を見ていても、よしっ、やってやるぞというものがないと思った。

最初に参加したいと思ったのは、伊予市はどうなるのか、どうやっているのかという思いがあってである。そのプランはどこから来ているのかと思えば総合計画から来ている。総合計画にあるから各事業をやりなさいというのでは、ルールだけである。総合計画も大事ではあるが、為政者である市長や幹部の思い、それも含めて初めてイノベーション（創造）が生まれると思う。もっといろいろみんなが考えて、これはどうすれば良いかという思いがあって、そこに隠れたものが事業の中に少しでも見られれば、評価しても面白い、感動もすると思う。我々もこういうことができるのでは、ということも出てくるのではないかと思う。革新が必要である。

職員は心豊かに、その地域をつくるために事業をするのではないか。それならば、端的に言うと自主財源が必要である。お金があれば全てうまく行くだろう。梼原町はみんな心豊かに過ごしている。馬路村でも夕方５時にはみんなバレーボールをやっている。それで年収はみんな1,000万円以上である。たった1,000人の村で工業出荷額は35億円である。伊予市の工業出荷額は幾らかご存知か。２年前で808億円である。そうすると人口割で考えると200万ちょっとである。馬路村はゆずだけで350万円だ。あの人たちは1,000万以上の年収を取っている。上勝町では、昔は山に行って葉っぱを取っていた。今は葉っぱを事業として栽培している。そうすると雇用も生まれる。それで跡継ぎもみんな帰って

いる、若い人が帰っている。そういうみんなをまとめるような革新、どういうテーマで持って行っていくか。みんなが腹の内で持ちながら総合計画を遂行していく。そういう方向でないと面白くない。

（委員長）

ありがとうございました。私自身も皆さんとほとんど同じである。

これはまとめの際、毎回言っている気がするのだが、行政というのは銭金にならない、いわゆる公共サービスをどうしても担わざるを得ない。それがこの事務事業評価の対象として浮かび上がってこない、埋没させられてしまう危険性があろうかと思う。そういう観点も含め、今委員が繰り返しおっしゃったように、リーダーの熱い思いが隅々にまでわたって感じられるような行政運営の縮図でないと、この行政評価、外部評価は意味をなさないと思う。総合計画を基にしているということであるが、全てが縦割りの予算科目ごとに整理されすぎており、逆に事業の全貌が見えないところがあると思う。せっかく担当課に同席していただいているのだから、その辺りの関係性というか、体系性というか、そういうものが分かっている方もいらっしゃるだろう。図式化でも何でもいいので、ひとまずそれを提示いただいて、ここでこういうことをやりたい、だからこの事業がある、そういう位置付けになっているという説明をしていただきたい。全てがスムーズにいっているわけじゃないはずなので、成果はもちろん数字を見れば分かるのだが、事業を遂行していく上で障がいのあった点であるとか、その障がいをどう克服していったかとか、一口で言うと苦労話のようなものを含めてお聞かせいただければ、もう少しリアリティを持つことができたのではないかと思う。

伊予市の場合は行政評価が良くも悪くも定着した。職員の皆さんも良い意味でも悪い意味でも慣れてこられている。この辺で先ほど委員が言及された形で、添付資料とか付属資料とか、取捨選択も含め、もう少し別の切り口で、事業の内容であるとか、体系性であるとか伝わるような仕掛けが必要なのではないかなと思った。言うは易く行うは難いとは思うのだが。

（委員）

今おっしゃるように、やはりどうしても縦割りである。今後は地方創生の要諦ではないけれど、政府も縦割りは退きなさいと言っている。当たり前である。やはりそういうものが今後は見られないかなと思う。それは未来づくり戦略室の役割だと思う。伊予市の将来はどうなるのかということである。

（委員）

今の話を聞いて思ったことである。事業の目的が書かれているのだが、これ

が乾燥した文章である。担当する人もずっとこれにかかっているわけではないだろうが、ここの書き方を変えて、どういう意図でこの事業をやっているのかという目的に、その担当部署の思いが出るよう書いてもらえればいいと思う。こういう意図でこの事業を組み立てているんだと。場合によっては、その目的自体がおかしいという指摘が外部評価で出るかもしれないし、この目的の元で、何でこうなってしまったのかという評価もできる。その方がいいと思う。

自己の課題認識などで結構スペースが余っているので、苦労話とかもどんどん書いてほしいと思う。

(委員長)

ご指摘のとおりである。いつもそう思う。

(委員)

それを書いておいてもらえれば、読んでいる方もこんなことをやっているのだなというのが分かりやすいと思う。乾燥した文章ではなくて、思いが入った文章を書くところをいっぱい作ってもらうのが重要だと思った。

(委員長)

乾燥した文章というのはうまい表現である。まとめていただきありがとうございました。

行政の日常は、これやりたいけれどどこにどういう予算があるのかと、目節という行政科目で判断されるのだろうが、どうしても予算が頭にある。そうは言っても税理士や公認会計士の先生からすると、自治体は単式簿記じゃないかと言われてしまいかねないので、痛し痒しである。だから最近公会計改革などというテーマでいろんな人がいろんなことを言い始めている。ある町ではそればかり専門にやっている人もいるくらいである。私は逆に分かりにくいのだけど。

(委員)

例えば投資した中山農産加工場は資産としてあるわけだろう。資産としてあるのだけど、それを維持管理するということが合理的なのかどうか。私が印象的だったのは、その環境の中でやはり、その地域を元気にされたいと、イエローキッチンのように頑張っていらっしゃるサークルができている。そういう頑張る地域の人たちの可能性を、過疎化で利用者が少なくなったから閉めるというのは担当課で決めるのは忍びないと。利用者が少なくても担当課で閉めるというのは決められないというお話を頂いた。だから今回どういう表現をすれば良いのか、若干もどかしいところがあるものの、そういうご苦労をお聞かせいただいたのは良かったと思う。

（委員長）

地方自治法上、公の施設と総称されるものをそのまま温存、維持し続けないといけないのか。その可能性というか蓋然性というか、それを検証することも必要だろうと思う。一昨年の行革甲子園の大賞は、そこに手を付けた今治市が受賞[2]した。

合併して特に目立つのは中山だろう、それは偽らざるところだろう。

（事務局）

ご指摘のとおりである。ちょうど本日中山地区で総合計画の説明会を行っており、恐らくそのことも議論になっていると思う。事前に設問も頂いており、中山の方からは、これからの中山地区をどうしてくれるのかビジョンを示せと言われている。施設の今後についてはあえて触れてはいないのだが、ぺヘレイは来年適化法が切れるので、廃止は間違いないところである。そのほか加工組合の施設やそば乾燥調製施設も今後は閉めていかざるを得ないと思う。合併時には伊予、中山、双海で一体感を、という話で進めてきたものの、もう10年以上経っていることから、やはり同じ伊予市内の施設として利益を生まないものはなくしていくと。今治のお話ではないが、地域の方と話していくのは今後必要になってこようかと思う。これが２期目というか、今後10年の大きな課題ではないかと思う。

（委員長）

地域の方と話す時が大変である。

（事務局）

おっしゃるとおり、今回の説明会は幹部が出席しているのだが、事前説明会で私どもが出向いていって中山、双海で話した際、非常に厳しかった。

（委員長）

そうだろう。今治の話を一つだけすると、今は防災行政無線が一般的だと思うのだが、ある場所では今も有線放送を使っている。

（委員）

懐かしい。

（委員長）

そう、懐かしいの域を出ない。有線放送なので施設整備がものすごくかかる。電柱はどうしているかと言うと、電柱使用料を市から土地所有者に払っている。しかも木柱、昭和40年代の話である。生活の一部だから取るなと地域住

[2] 行革甲子園2014において、今治市が「公の施設等評価及びあり方方針」の策定～自らの市のことは自らが考え、創る～の取組内容で大賞受賞

民の大反対はあったのだが、大反対があってもこれはいただけないだろう。携帯を持ちながら有線放送を聞いているというのは変な話だということである。そういう区分けをしないと地元には伝わらないはずである。

私は、ペヘレイは中山のせいではなく、県の無責任な事業の割り振りだったと思う。全国では温泉地にピラティアという淡水魚を養殖する施設を何箇所か造ったはずである。こちらの水は甘いぞということで、かなり強力に推し進めたようである。食って食えないものではないと思うのだが、わざわざその魚をさばいて食わなければならないということにはならない。だからああいうものは起爆剤にはなりにくいものである。よく先を見ないと分からない。

これからは総合計画も10年では短いと思う。もう少し長いスケールでやり変えた方が良いと思う。基本構想、基本計画、実施計画と、中期から短期というふうにいずれの自治体もやっていたのだが、それ自体義務化されていないのだから、考え直した方が良いと思う。

あと、これだけ合併すると、周辺の自治体とのいわゆる広域連携制度も模索せざるを得ないと思う。いろいろ事務組合をお持ちだと思うのだが、それは整理統合すればいいと思う。あれこそ無駄である。

（事務局）

伊予市も10くらい入っている。福祉施設が細かく分かれおり、ほかにごみ処理関係や大洲喜多衛生組合などある。

（委員長）

内山なんとかというのがあるだろう。

（事務局）

内山は解散の運びとなった。

（委員長）

それは望ましい。内山ってなんのことかと思ったら内子中山のことである。

（事務局）

ごみ処理やし尿処理において、合併前に内子、大洲、松前とやっていたものが、継続して残っている。ごみ処理は話が付いて解散し、今は中山地区も伊予市のごみ処理で受けている。消防は伊予松前砥部である。何とか整理統合しないといけない。

（委員長）

だから、複合的事務組合を一つ作って、全部そこに事務事業を所管するよう突っ込めばいいと思う。一番無駄なのは、それぞれの一部事務組合に張り付いている議員である。議員の中には広域事務組合の議員だと名刺に刷り込んでい

る方もおられたが、それは意味がないだろうと思う。そういう大きな枠組みについても話ができる形にして、担当課から説明いただければ、よりリアリティは増すと思う。

話は尽きないが、そういう方向でお願いする。

（事務局）

今頂いた意見は、会議録という形で配布する。またそれらを踏まえた形での原案をなるべく早い時期にこちらから提示し、そちらに対して意見を頂くということとしたい。いつまでにできるかははっきりと申し上げられないが、案を見ていただいた上で委員のご意見の総意をもって決定したいと考えている。

こちらから送付した際、確認やご意見を頂ければと思う。

（４）次回の委員会

（事務局）

昨年委員の皆さまに委嘱をした後、前期の委員からの受け渡しということで事業を審議していただいた経緯があろうかと思う。第９回の委員会は、次期への引継ぎというか橋渡しというか、そういう形で行政評価の対象事務事業の選定をいただければと考えている。

９月で半期が終わっているので、現在中間評価等も含めて記入してもらうよう進めている。先ほど提案いただいたとおり、どういう切り口、どういう観点で見ていくかということもある。事務局で整理や検討をさせていただき、できれば全体が見えるような仕組み、そういう評価ができるものを考えていかなければならないと考えている。少し時間をいただきたい。

１月ないし２月辺りにもう一度お集まりいただき、事務局案を基に敲いていただく形にはなろうかと思うのだが、それで次期の評価対象事業を選んでいただきたいと考えている。なお、日程については来年の話ということであるので、時間をおいてから、個々の調整になろうかと思うのだが、メール、電話等により調整させていただきたいと思う。

（委員長）

ちなみに昨年度の最後の委員会はいつだったのか。

（事務局）

昨年は２月に実施している。

（委員長）

ということである。そのように予定させていただくので、お含みおきいただければと思う。

（５）その他

(事務局)

翌週に経営者会議を予定している。市長・副市長・教育長を中心とした部長級等での最終判断を行うこととしている。そちらで今回の34事業について報告し、それを基にどういった形で進めていくかという最終判断を行うこととしている。それを基に議会への報告も行っていくこととなる。そちらの結果については、次回の委員会で提示できようと思う。

(委員長)

要は12月議会ということだろう。分かった。そういう段取りのようなので、よろしくお願いいたしたいと思う。